

株式会社ジェイコム湘南・神奈川

2023 年度第 1 回 放送番組審議会 議事録

2023 年度第 1 回の放送番組審議会は、2023 年 9 月 14 日(木)に開催された。

<放送番組審議会委員> (五十音順)

—ご出席—

新井 鷗子 様	亀井 泰人 様	菊嶋 秀生 様
永妻 和子 様	安田 震一 様	山崎 雅文 様
芳澤 一夫 様		

事業者側から会社の現況に加え、J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)の放送内容について報告があった。

【質疑応答・意見交換】(安田会長による進行)

委員(新井) 広報番組の受託方法を教えて欲しい。

事業者 各行政の議会を通して、予算・放送回数・番組構成等を検討いただいている。10 年前と比較すると行政の予算は縮小傾向にある。

委員(菊嶋) 花火大会をドローンで空撮したり、ラグビーワールドカップのパブリックビューイングが実施されたりしていて、撮影手法や視聴できる場所等が多岐に渡るようになっているが、J:COM ではどうしているのか。SDGs 視点での番組づくりについてはどのように取り組んでいるのか。

事業者 テレビだけでなく、制作した映像をアプリでも視聴できるようにしている。SDGs 視点での番組制作取り組みについては、高校生が神奈川県知事へ多種・多様なテーマについて質疑をするという「ハイスクール議会」を収録・放送している。

委員(芳澤) 20 年以上ケーブルテレビと関わり合いを持ってきていた。取材対象として、スポーツや地域イベントに加えて文化・芸術・歴史というものも対象にしていきたい。アプリ「ど・ろーかる」というネーミングはいい。地域密着を感じる。

委員(安田) 赤レンガ・博物館・美術館を取材し放送することは、地域情報の発掘に

加えて海外に繋がることになる。神奈川県を海外や訪日外国人へアピールすることに繋がると考える。

事業者 音楽・カルチャー・歴史・芸術分野への取材は少ない。今後の課題にしていく。そうした映像は、例えば飛行機内で視聴することを想定すると、活用の道が見えてくる。

委員（永妻） 以前に、日本語 CS ステーションを取材・放送していただき感謝申し上げます。日本語が十分にわからない方向けに施設をうまくまとめた映像になっていた。ダイバーシティという視点で取材ルールはあるのか。

事業者 取材・放送についての自主規制というものを設けている。学校での取材は特に注意しているが、日頃からの取材においても顔が映る事には注意している。

委員（山崎） 視聴率や番組改編の考え方を教えて欲しい。

事業者 視聴率は、ケーブルテレビのチューナーが設置されている加入者については視聴率が取れている。一方で未加入者の場合はチューナーが設置されていなくても番組を視聴できるので視聴率はとれない。番組改編については、民放とは違い1クール毎に改編はせず、視聴状況をみて改編している。

委員（亀井） 放送の映像を見て、インタビューの構図が素人的と感じた。撮影時のルールというものはあるのか。

事業者 ルールというものはないが、ご意見とともに見易い・伝わり易い映像をお届けしていきたい。

委員（菊嶋） 高評価・低評価といわれる番組はどういうものがあるのか。

事業者 花火大会中継、高校野球神奈川県大会、地域のお祭りとして小田原北條五代祭りなどは視聴率が高い。一方で、地域の各イベントは視聴率が低い。

委員（菊嶋） 居酒屋石ちゃんは面白いと思う。MC がいいのだろう。

委員（芳澤） 「歴史を歩く」はいい。県内のみならず全国の歴史を語るので多くの人に視聴されていると思う。

事業者 この番組も高い評価である。

委員（新井） 障がい者の美術・芸術展を取材・放送するといいい。字幕をつけるなど一時間かかるが、自動翻訳もあるので是非、障がい者にも目を向けた番組づくりというのもいいと思う。

事業者 手話を取り入れた番組もある。自動翻訳は便利でいいが、一方で正確性という視点では、テレビ放送とインターネット配信とでは区別して考えたい。

事業者 多くの貴重なご意見をいただいた。今後のコミュニティチャンネルの映像制作・放送に活かせるよう検討していく。

以上